

私たちにできることは？

5 校区のやることリスト

第2回ワークショップで、託麻南校区のやることリストとして、様々な意見が挙げられ【図11】のとおりリスト化され、第3回ワークショップでこの中からすぐ実施・必ず実施するものの洗い出しを行いました。

すぐ実施・必ず実施したいもの

○すぐできそう

☆やり方が分からない

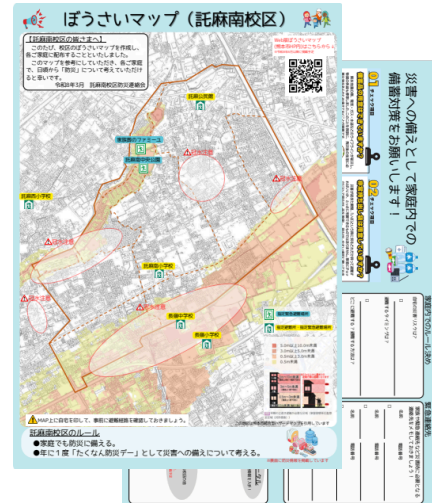
自助・共助・地域づくり	家庭内の避難準備ルール（集合場所・連絡手段・持出品・避難の判断・避難経路等）の決定	○
	家庭での持ち出し品、備蓄品（3日分）の周知（チェックリスト配布等）	○
	校区内の要支援者や一人暮らし世帯の把握と避難支援の仕組みを考える	○
	日頃の要支援者の見守り・声掛けルールの仕組み化	
	隣保班内の安否確認ルール（連絡網・『二軒先まで声掛け』等）を決める	○
	校区で生活する外国人（世帯）が避難時に必要な地区の防災情報を提供（多言語での掲示等）	
	校区で生活する外国人（世帯）への地域防災活動・イベント等の広報と参加促進	
	地域住民の日常的な交流の場への参加を促進し住民同士のつながりをひろげる	
	日頃の地域でのボランティア活動への参加等を通して共助意識を高める	
連絡情報収集	連絡手段（無線/安心メール/LINE/掲示/巡回）の標準化と役割分担の明文化	
	防災無線の設置・町内放送の活用方法を整備	☆
	避難アプリの活用を検討（利用者調査）	
	危険箇所・避難場所等のわかりやすいハザードマップ作成 → 全戸配布	○
	冠水危険箇所・冠水箇所は地域全体で把握（調査、マップ化、写真等）	
県や市の防災情報を活用した水位監視情報の利活用の周知（URL・閲覧方法）		
体制づくり	標高・浸水想定に基づく高所への車両避難の候補地検討と借用協定打診	
	車両避難マップや安全な車両避難ルール等の検討・作成	
	災害（断水）時の井戸等の代替水源の場所を地域で共有（マップ・掲示等）	
	地域公民館等の飲み水や食料の備蓄・電源確保のルールやリスト検討	☆
	地域の商工会や店舗からの災害時における物資供給の支援体制を検討・運用	
	避難時の協力企業リスト（物資・人員・機材・連絡先）整備	
	学校と連携した防災授業・地域訓練の企画	
避難時ルール	地域の危険箇所と連動した避難判断目安（警戒レベル対応）や情報収集方法を定める	
	『明るい時に避難』原則を掲示・回覧で周知	
	校区の避難訓練（地震時・水害時）実施して避難手段や避難ルールを確認・見直す	
	各避難所運営に関わるマニュアルや避難ルールを地域住民に周知する	
	避難先として高校グラウンド等の広域な避難場所の利用について協議	
避難危険経路所	危険箇所（水没地域箇所等）の周知看板設置	☆
	災害時に備え町内の防犯灯の点検や交換をおこなう（自治会で？）	
	安全な避難ルートの候補となる私有隣地の通行許可の取り決め（書面等）	
	校区の避難所（地域指定の避難場所/一時避難場所/指定避難所）を地図で明示し→全戸配布	○
	町内掲示版にて避難所の地図（防災マップ）を掲示	
地震発生時に安全・安心な避難先を事前に地域で共有・周知する		

【図11】校区のやることリスト

私たちにできることは？

6 今後の取り組みについて

地区防災計画は作成して終わりではありません。
これを今後どのように活用していくかが大切です。
ルールとして定めた「たくさん防災デー」を活用し、今後の取り組みについて考えていく必要があります。
やることリストの中で、すぐ実施、必ず実施するものから優先的に進めていき、
私たち校区住民主体となって、防災活動に取り組んでいきましょう。



7 防災に役立つ情報

熊本市公式LINEアカウント
校区の災害・消防情報を入手！
防災以外の情報も！



熊本市(@kumamotocity)

熊本市情報防災ポータル
熊本市の緊急情報や
避難所開設情報を入手！



くまもとアプリ
スムーズな避難所受付が可能！
避難状況の把握も！！



App Store からダウンロード

Google Play でのダウンロード

防災計画
熊本市の地域防災計画や
各校区の地区防災計画を確認！



※託麻南校区の地区防災計画は、
令和8年(2026年)6月以降に掲載予定

災害はいつ起きるか分かりません。発生したときには、日常の生活が一変することもあります。そのような状況の中で、被害をできる限り小さく抑え、命と暮らしを守るためには、日頃からの備えと心構えが何よりも大切です。

また、災害の形や社会環境は時代とともに変化しています。そのため、本計画を必要に応じて見直しや改善を行い、より実効性の高いものとしていくことが求められます。関係機関や地域の皆さまと協力しながら、安全・安心な体制づくりを継続していきます。

災害時には、公的な支援(公助)がすぐに行き届かない場合もあります。そのようなときこそ、日頃の備え(自助)や、周囲との助け合い(共助)が大きな力となります。本計画をきっかけとして、防災について考える時間を持ち、家族や身近な人と話し合い、できることから備えを進めていただければ幸いです。

今後も、災害に強いまちづくりを目指し、一人ひとりが防災への意識を高め、互いに支え合いながら取り組んでいきたいと考えています。本計画へのご理解とご協力をお願いするとともに、いざというときに、皆さまの行動がご自身や大切な人の命を守る力となることを願っています。



熊本地震発生後に区役所へ送られてきた応援メッセージ
熊本デジタルアーカイブ／平成28年熊本地震(提供:国立研究開発法人防災科学技術研究所)

託麻南校区防災連絡会